今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇2月19日～

日経平均が先週も大きく上昇し、ついに 1989 年の史上最高値に接近するところまで上がりました。日経平均の連日の急騰が続く中、為替相場も円安が進みました。
日本も財務大臣などが円安けん制発言をしており、ドル／円の151円付近での急変には注意がいります。
ドル／円は、151. 9円を 2022 年、2023年に２回つけているため152円を超えていくような動きが出れば長期的にもさらなる円安が進んでいく可能性がでてきます。
日本としても 150 円超の円安が進むことはリスク要因となってきます。
すでに全国消費者物価指数は2％を超え、輸入品の価格が円安の影響で、さらに上がっていけば経済や国民生活にも打撃となります。
そして、米国株も今月に入って、NY ダウや S&P500 などが史上最高値更新の動きとなっています。今回の上昇はAIバブルと言われています。半導体やAI関連が相場を引っ張っています。
そして、日本株を買っているのも海外勢が多く、米国株など海外の動きに左右されます。
バブルは仮想通貨でも起きて、ビットコインが先週は 5 万ドルを超える動きとなっています。
最近のバブルは利下げ期待から上昇してきた面もあるので、米国の利下げ期待が後退すれば逆風が吹いてくる可能性もあります。
先月からの異常な株の強さは少し違和感があります。株価は急騰後に急落する動きが出やすく、今回の上昇は少し警戒した方がいいかもしれません。
天井付近で悪材料が出て、一気に流れが変わることは相場ではよくあります。
日経平均の歴史的な史上最高値（3 万 8915 円）更新はあるかもしれませんが、その後の動きは要警戒です。
先週発表された米国の消費者物価指数や卸売物価指数は予想よりも強い数字となり、利下げ期待はやや後退しています。
月曜は、米国はプレジデンツデー（大統領の日）で祝日です。
中国も春節明けとなるため新たな動きがあるかもしれません。
ということで、今週の動きは重要です。株価もドル／円も年初からずっと上昇が続いている状態なので、この流れがどこまで続くかがポイントになります。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

＜ドル／円＞

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved

今週の相場はどうなる？

ドル／円は年初につけた 140 円台から 10 円ほど上昇しています。
150円超を買っていくのはリスクが高く、デイトレなど短期売買以外の人は手を出さない方がいいかもしれません。
まずは、149．5円を維持できるかどうかに注目。
ここを割り込むと 148 円あたりまで下がるリスクがあります。
148 円あたりを維持できれば高値圏を推移する動きが続きそうですが、147．6円を割り込んでくると調整が深くなりそうです。
上値は、先週高値の150．9円あたりを超えてくると151．9円を再度目指す動きが出そうです。

＜気になるクロス円＞

クロス円も先週は上昇しているペアが多く、株価が強気で推移している間は上昇の流れが続く可能性があります。
ただし、多くのペアで月足のチャートを確認するとわかるように長期的には高値圏にあるため中長期的なポジションを持つには慎重になった方がよさそうです。
カナダドルや豪ドルなどは 2022 年につけた高値のレートに来ており、ここを明確に超えていくことができるかどうかが中長期的な動きを見る時には重要になります。
この 2 つは資源国通貨なので、昨年を底に原油価格が再び上昇してきている点も注目です。
原油価格が上がると資源国通貨には追い風になります。

＊クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

＜今週のファンダメンタル？＞

日本では12月機械受注、1月貿易統計などがあります。
米国では 1 月景気先行指標総合指数、FOMC議事要旨、前週分新規失業保険申請件数、2月製造業・サービス部門・総合PMI（速報値）、1月中古住宅販売件数などが発表されます。
欧州ではユーロ圏とドイツで2月製造業・サービス業PMI（速報値）、ドイツで 10－12 月期GDP（改定値）、2月IFO企業景況感指数、ユーロ圏で1月消費者物価指数、ECB（欧州中央銀行）理事会議事要旨などがあります。
ほかにはカナダで 1 月消費者物価指数、12月小売売上高、英国で2月製造業・サービス業PMI（速報値）の発表などがあります。

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved